

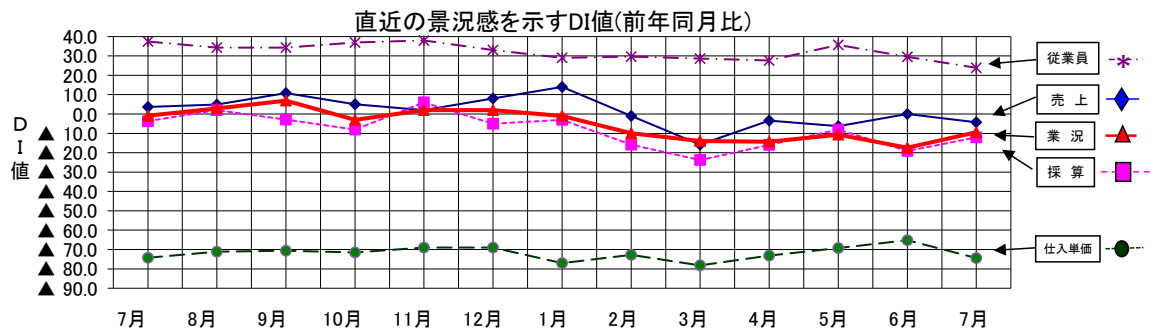
【7月の概要】

インフレ進行で売上悪化、
採算・業況は改善も仕入れ負担の重さ続く

直近の景況感を示すDI値では、「売上DI」が前月の0.0から▲4.3へ悪化し、再びマイナス圏に沈んだ。一方、「採算DI」は前月の▲19.1から▲12.0へ7.1ポイント改善、「業況DI」も前月の▲17.4から▲9.4へ8.0ポイント改善し、低水準ながらも改善傾向がみられる。「仕入単価DI」は前月の▲65.2から▲74.4へ悪化し、コスト負担の重さが続く。「従業員DI」は23.9まで低下し、やや緩和したものの、人手不足感は依然として解消されていない。

先行き見通しでは、「売上DI」が前月の9.6から▲5.1へ大幅に悪化し、「採算DI」と「業況DI」も前月を下回り、先行きに対する慎重な見方が強まっている。

コメントでは、熱中症対策義務化に伴う現場負担の増加や、人手不足による工事の延期、経済状況の厳しさによる値上げ交渉の難航が指摘された。さらに、原材料高騰分の価格転嫁が難しく、利益改善が進まないとの声も多く、収益環境の厳しさが続いている。



【直近の景況感を示すDI】 ※DI(景況判断指数:Diffusion Index の略)=(良い割合)-(悪い割合)
※従業員=(不足)-(過剰)

	2024年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	2025年 7月
売上	3.7	4.9	10.8	5.0	2.0	8.0	14.0	▲ 1.0	▲ 15.8	▲ 3.4	▲ 6.3	0.0	▲ 4.3
採算	▲ 3.7	2.0	▲ 2.9	▲ 8.0	6.0	▲ 5.0	▲ 3.0	▲ 15.8	▲ 23.8	▲ 16.0	▲ 8.0	▲ 19.1	▲ 12.0
業況	▲ 0.9	2.9	6.9	▲ 3.0	2.0	2.0	▲ 1.0	▲ 9.9	▲ 13.9	▲ 14.3	▲ 10.7	▲ 17.4	▲ 9.4
仕入単価	▲ 74.3	▲ 71.1	▲ 70.6	▲ 71.5	▲ 69.0	▲ 69.0	▲ 77.0	▲ 72.8	▲ 78.2	▲ 73.1	▲ 69.2	▲ 65.2	▲ 74.4
従業員	37.4	34.3	34.3	37.0	38.0	33.0	29.0	29.7	28.7	27.7	35.7	29.6	23.9

- ・前月比でマイナス幅が減少(改善)したDI値:採算+7.1ポイント、業況+8.0ポイント
- ・前月比でプラス幅が減少(改善)したDI値:従業員▲5.7ポイント(人手不足感が弱まった)
- ・前月比でマイナス幅が増加(悪化)したDI値:売上▲4.3ポイント、仕入単価▲9.2ポイント

【向こう3か月間の先行き見通しを示すDI】

	売上(受注・出荷)	採算	業況	仕入単価	従業員
5月回答	▲ 8.0	▲ 16.1	▲ 16.1	▲ 45.5	31.3
6月回答	9.6	▲ 5.2	▲ 8.7	▲ 51.3	30.4
7月回答	▲ 5.1	▲ 12.0	▲ 14.5	▲ 52.1	25.6

- ・前月比で見通しが改善したDI値:従業員▲4.8ポイント(人手不足感が弱まった)
- ・前月比で見通しが悪化したDI値:売上▲14.7ポイント、採算▲6.8ポイント、業況▲5.8ポイント、仕入単価▲0.8ポイント

【業界から寄せられた主なコメント】

建設業	総 合 設	熱中症対策義務化に伴い、現場の健康管理や作業時間の制限、教育徹底などで職員の負担やコスト増が見込まれるが、安全最優先で無事故竣工を徹底している。
	電カメンテ	工事の依頼は例年になく多いものの、人材不足で対応できず、断ったり延期したりしている状況。
	機 械 設 置	新潟県内の経済状況はあまり良くないと感じており、値上げ交渉も難航している。工事経費は約1.8倍に増え、社員の賃上げや賞与も思うようにいかない。
製造業	溶 接	熱中症対策としては休憩をこまめに取らせているが、大型冷房設備の導入は当面難しい。ステンレス鋼板の高騰は落ち着いたが、種類によって在庫が少なく見通しが立たず困っている。
卸売業	コーヒー	4月以降景気後退を感じる。消費マインドが下がりつつあるのではないかと。
小売業	パ ン	原材料高騰で売価を見直しているが、価格上昇の幅や頻度が大きく、十分に転嫁できず利益率の改善が難しい。
サービス業	ソフトウエア開発	昨年と比べても商談は多く寄せられているが、人材不足で受けきれない商談が増えつつある。
	タクシー	連日の暑さで乗車回数は増えているが、乗務員不足で採算が取れない状況が続く。物価高も続いており、トランプ関税の影響がないことを願う。7～8月の行事による需要増に期待している。

※本コメントは、調査結果の一部を編集・要約したものです。内容の趣旨を損なわない範囲で表現の調整を行っています。

早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 7月分 各業界からのコメント

建設業
R7.6.1施行 労働安全衛生法の熱中症対策が義務化されました、当社各現場作業所においては、炎天下での屋外作業、或いは建設中の建築物においては仮設空調設備しかない空間での屋内作業を強いられます、本規制により就労者の健康管理状況の把握や連続作業時間の制限、就労者へ教育徹底と、従来に増して現場職員の業務負担増加、コスト u p が想定されますが、安全は何事にも優先されなければなりません、無事故無災害での無事竣工を一層徹底しています
猛暑/熱中症対策、人手不足
新潟県内市内の経済状況はあまり良くないと思います。お客様に値上げ交渉をしても良い返事をもらえません。国の方からもっと予算を持ってきてもらわないと厳しいと思います。弊社工事の経費が軒並み1.8倍位になっております。社員さんのベースアップ、ボーナスも思う様に行きません。関東関西のお客様は良く理解してくれます。なんで新潟はダメなのか理解に苦しみます。
熱中症対策法に基づき 7 月 1 日より法の理解、現場情報共有と対応連携の見直し、発生時の判断の骨子等をより強化している。 都市部を中心に民間需要は旺盛であるが、人手とタイミングの見極めは引き続き注意しながら、営業活動を進めている。
工事の話は例年になく多いが、人材不足で対応ができずお断り（延期）している状況です。
製造業
熱中症対策としてはこまめに休憩を取らせる。大きな冷房設備も考えてはいるが、すぐには動けないのが現状。ステンレ鋼板の価格高騰は収まっているが、種類によって市場在庫が薄い状況が出てきている。見通しが立たず困っている。
コスト(原料、包材、燃料)増に加え、米価格の上昇もあってか特に飲食関係の得意先の売上が減少。但し、東京の外食は順調だが県内の落ち込みをカバーしきれない。
卸売業
4 月以降景気後退を感じる。消費マインドが下がりがつつあるのではないかと
小売業
原材料の価格高騰のため、売価の再設定をしているが、上がり幅が大きいもの、上がる頻度の高いものがあり売価に反映しきれていない。そのため利益率を上げづらい。
猛暑の影響で熱中症対策への設備投資を行いたい、先行き不透明感が高いため出来ていない
原材料価格高騰が続いているが、価格転嫁できないため収益の悪化が予測される
西日本を中心に梅雨明けが早い、夏物の販売が早めに動き出した。
サービス業
昨年と比べても商談は多く寄せられているが、人材不足で受けきれない商談が増えつつある。
物価高の影響で、趣味としてお花をを楽しむ方が減少しているのではと感じている。
仕入単価が上がり続けていることで非常に収益性が落ち続けている。その中で、トランプ関税の着地状況によっては更に悪化していくことが不安要素である。それとは別に国内の参院選の選挙結果によって、好転となるか悪化の方向へ向かうかが決まる可能性もある。
職場の熱中症対策強化の一環として、人の遺伝子の特徴により熱中症にかかりやすい人を把握する「熱中症体質遺伝子検査」を検討中。
新潟まつりも大幅に規模縮小となり、それに関する売上は減少となる。仕入・光熱費・ガソリン価格など上昇する一方の中、少しづつ商品価格に反映できているので引き続き状況を見ながら値上げ等行っていきたい。
新採用があったが教育中のため、営業収入には反映されない。 連日の暑さの影響で乗車回数は伸びてきたが、乗務員数がまだまだ不足で採算が取れない状況が続いている 物価高は相変わらずであり、トランプ関税に惑わされないことを願う 7～8月の行事に期待したい
仕入れ価格高騰と顧客案件の減少より景況悪化見通しとなります。